

研究概要書：地域資源・交通拠点等のネットワーク化による 国際観光振興方策に関する研究（プロジェクト研究）

プロジェクトリーダー名：	空港研究部長 辻 安治
	H16-17 広瀬 宗一
	H17-18 大根田 秀明
	H17-18 加藤 久晶
技術政策課題：	(12)都市・地域の活力の再生
サブテーマ：	(36)地域資源・交通拠点等のネットワーク化による国際観光振興方策に関する研究
関係研究部：	空港研究部、港湾研究部、道路研究部、高度情報化研究センター
研究期間：	平成16年度～平成18年度
総研究費：	約20百万円
コア：	—
大枠テーマ名：	人のモビリティの向上
大 中 小	大分 類：国際競争力と地域の活力を支える移動環境の整備
	中分 類：快適で便利な移動環境
	小分 類：国際観光交流・地域間交流の拡大

1. 研究の概要

平成15年、「観光立国行動計画」が出され、平成18年12月には、「観光立国推進基本法」が成立した。

本研究においては、観光立国の推進に寄与し、地域活性化を推進するため、観光振興と社会資本整備の関係性について分析し、観光振興の観点から社会資本整備の留意点について整理するとともに、空港を中心とする観光客の動向について分析し、地域の玄関である空港及び空港を中心とするゲートウェイ空間の利活用方策、空港及び地域の連携方策について提言するものである。

2. 研究の目的

研究の目的は、観光振興と社会資本整備の関係性及び空港を中心とする観光客の動向について分析し、

- ・観光振興のための地域の取り組みのガイドライン
- ・豊かな観光体験を提供する資源及び交通拠点のネットワーク化手法
- ・地域の価値向上のためのゲートウェイ空間の利活用方策

を構築することである。

そのために、以下の研究項目（サブテーマ）を設定した。

1. 観光の現状の把握

- ・ヒヤリング等をもとに我が国における観光の現状と課題について把握する。

2. 我が国の観光政策・観光計画の歴史の把握

- ・我が国の観光政策、観光計画の歴史について把握するとともに、諸外国の観光政策と比較する。

3. 観光振興の観点からの社会資本整備の留意点の把握

- ・主要な観光先進事例における事例分析から、観光振興に関する評価軸を整理するとともに、社会資本整備と観光振興の関係性について分析し、観光振興の観点から社会資本整備における留意点について整理する。

4. インバウンド観光振興の動向と留意点の整理

・データ等からみるインバウンド観光の動向と課題について整理するとともに、北海道等を事例として、インバウンド観光振興の動向について把握し、インバウンド観光の留意点について整理する。

5. 観光振興の観点からの空港ターミナル及びゲートウェイ空間の利活用方策の提言

・空港を中心とする観光客の動向を分析し、地域及び空港毎の特徴を把握し、観光振興の観点から空港ターミナル及びゲートウェイ空間の利活用のあり方について提言する。

3. 自己点検結果

○目標の達成度

本研究の成果目標に対する研究成果及び成果の活用方針は、別紙様式のとおりであり、各研究項目（サブテーマ）に対して一定の成果を得ており、目標は、概ね達成したと考える。

○成果

1. 観光の現状の把握

（1）観光の現状の把握

観光研究のレビューを行ない、主要なアプローチについて分類、整理した。

（2）観光の課題の把握

有識者ヒヤリング等により、我が国の観光に関する課題等について整理した。また、観光統計データの課題等について整理した。

2. 我が国の観光政策・観光計画の歴史の把握

（1）観光政策、観光計画の歴史と課題の把握

我が国の観光政策、観光計画の歴史について整理し、時代毎の特徴について把握するとともに、現在の観光政策の課題について整理した。戦前及び戦後オリンピックまでは、商品としての国土・社会資本の魅力の向上、高質な受け入れ施設の整備、ソフト（対外的な情報発信・サービス）などに係る国の政策が一体となっていたが、現在の政策は、ソフトに偏っており、社会資本整備と連携がとれていないことを指摘した。

我が国の観光政策の変遷

	国土・社会資本整備	受け入れ施設	情報・サービス
明治	外国人によるリゾート開発 外国人による風景の発見	民間人による外国人向けホテルの建設	1893年「喜賓会」 (外客誘致斡旋機関)創立
大正～昭和 初期	1931 国立公園制度	国の融資による国際観光ホテル	鉄道院国際観光局 国際観光委員会 国際観光協会
戦後から昭和 30年代	国際観光文化都市法	公的融資によるシティホテル建設	国際観光事業助成法 国際観光協会等
昭和40年代 から50年代	大規模レクリエーション基地構想(各省)		
昭和60年代	リゾート法		
現在	(観光ルネッサンス事業)		ビジット・ジャパン・キャンペーン、観光カリスマ

(2) 観光政策の国際比較

我が国と諸外国の観光政策について比較、分析し、(1)で明らかにした戦後オリンピックまでの我が国の観光政策のあり方は、発展途上国型であること、先進国における観光産業に対する政府の関与には、フランス、イタリアなどのように政府の関与が大きいタイプとアメリカ、イギリスのように政府の関与が小さいタイプの2つがあり、現在の日本は、アメリカ型であることを指摘した。

3. 観光振興の観点からの社会資本整備の留意点の把握

(1) 先進観光地の事例分析

観光関係機関及び観光関係の有識者に集まって頂き、全国数十事例の主要な観光先進地における事例分析を行い、観光振興に関する評価軸を整理した。特に、来訪者・観光客、観光関連産業からの評価軸だけでなく、地域住民からみた評価軸の重要性について指摘した。また、得られた評価軸の時代的変遷について考察するとともに、観光振興の変遷の主要なパターンを当該評価軸を使って説明することを試みた。さらに、評価軸間で齟齬が生じている事例及びその解決事例について着目しながら、それぞれの事例における社会資本整備と観光振興の関係性（観光振興に与えるプラスの効果、マイナスの効果）について考察、整理した。

(2) 観光振興の観点からの社会資本整備における留意点の把握

(1)をもとに、観光振興の観点からみた社会資本整備における留意点について整理した。

観光振興に関する評価軸

	来訪者・観光客	自治体・観光関連産業	地域住民
評価軸	<ul style="list-style-type: none"> * 資源性・地域性 * 空間の快適性 * アクティビティの多様性 * 宿泊施設の質 * アクセス性 (および移動性) 	<ul style="list-style-type: none"> * 観光施設の事業性 * 観光地としての持続性 	<ul style="list-style-type: none"> * 地域住民の安全・安心な生活 * 住民にとっての生活環境・利便性の向上 * 地域の歴史・文化の保全・継承 * 地域の誇りや愛着の醸成 * 雇用の場、所得

4. インバウンド観光振興の動向と留意点の整理

(1) インバウンド観光振興の現状把握

データ等をもとに、インバウンド観光振興の現状と動向について把握し、国によって、志向や旅行形態、利用空港に特徴があること、それらが時間によって変化していること等を把握した。

(2) 北海道におけるインバウンド観光の動向の把握

北海道を事例とし、観光関係業者等にヒヤリングを行い、インバウンド観光の動向と課題について把握、整理した。以上をもとに、地方（空港）においては、国毎の動向を把握するとともに、それに対応した情報や2次交通の提供が重要となることを指摘した。

5. 観光振興の観点からの空港ターミナル及びゲートウェイ空間の利活用方策の提言

(1) 空港を中心とする観光客の動向の把握

航空旅客動態調査、アンケート調査をもとに、空港を中心とする観光客の動向について分析し、空港によって、利用者構成比率（観光利用目的・業務利用目的）、旅行形態（個人、団体）が異なり、その結果、空港毎に2次交通手段、旅行範囲（空港所在県内のみ移動が主／空港所在県と異なる自治体への移動が多い／自治体の範囲を越えて、広域に流動し、異なる空港からインアウトする等）等に特徴が

あることを明らかにした。また、利用者の属性によるニーズの違い及び利用者の構成比率の違いと空港のピーク率の出現の仕方の関係について把握、指摘した。

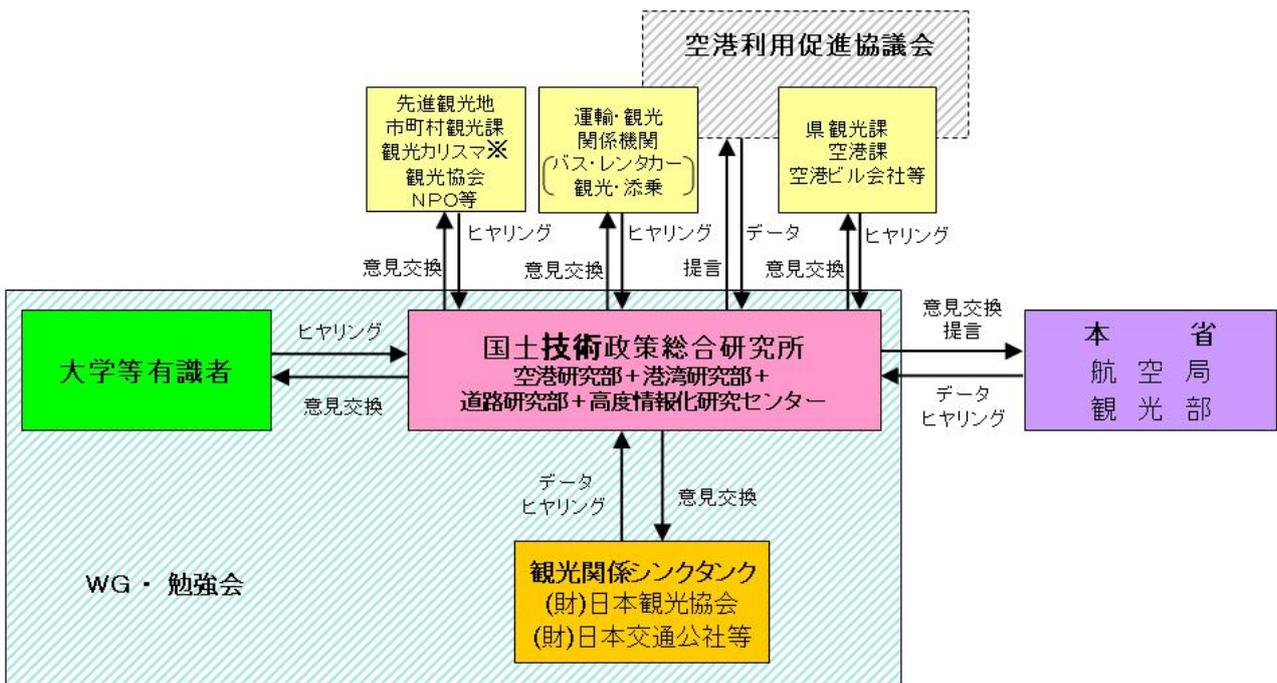
(2) 観光振興の観点からの空港ターミナル及びゲートウェイ空間の改良・利活用方策の提言
観光振興の観点から空港ターミナル及びゲートウェイ空間の利活用のあり方について提言した。

○本研究開発の実施方法・体制の妥当性

(研究の実施体制)

- ・本研究が取り扱う対象は、観光振興と社会資本整備の双方にまたがる広い範囲であること、また、観光立国行動計画策定以降、様々な取り組みが行われている分野であることから、観光振興、社会資本整備に係る広い範囲の有識者、観光関係機関等の専門家にご協力頂くこととした。その結果、体系的な資料・情報収集が可能となった。また、WGの設置により、研究全体のフレーム設定、課題の把握、個別事例の分析等に関し、専門的な見地からのご助言を頂けた。
- ・自治体の観光部局、空港部局、先進的な観光地における、まちづくり、観光振興の担い手等にヒヤリング、意見交換等を行い、現場の課題等について把握することができた。
- ・このため、研究の実施方法・体制としては、妥当だったと考える。

(研究の体制図)



(※国土交通省観光部が選定した著名観光地における地域リーダー)

(研究の実施方法)

年度計画と研究費配分

区分 (目標、サブテーマ、分野等)	実施年度			総研究費 約20 [百万円]
	H16	H17	H18	研究費配分
観光の現状の把握				約1 [百万円]
我が国の観光政策・観光計画の歴史の把握				約1 [百万円]
観光振興の観点から見た社会資本整備の留意点の把握				約5 [百万円]
インバウンド観光振興の動向と留意点の整理				約3 [百万円]
観光振興の観点から見た空港ターミナル及びゲートウェイ空間の改良・利活用方策の検討				約10 [百万円]

○上記を踏まえた、本研究開発の妥当性

- ・観光振興と社会資本整備の関係性について体系的に整理した例、また、空港を中心とする観光客の動きや観光振興とゲートウェイ空間との関係性について全国的な規模で分析した例はないため、意義があったと考える。

4. 今後の取り組み

- ・今後、引き続き、空港、自治体等と連携の上、旅客の動向等に係るデータを収集し、全国的な動向について分析するとともに、長期的にモニタリングを行いつつ、空港の利活用方策等に係る助言を行ないたい。

研究課題名：地域資源・交通拠点のネットワーク化による国際観光振興方策に関するプロジェクト研究

研究の成果目標	研究項目(サブテーマ)	研究成果	研究成果の活用及び活用方針(施策への反映・効果等)	成果目標の達成	備考	
観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供 観光振興の取り組みのガイドラインの提供	我が国における観光政策・観光計画の歴史の把握	我が国の観光政策、観光計画の歴史について整理し、時代毎の特徴について把握するとともに、現在の観光政策の課題について整理した。	我が国の観光政策、観光計画の歴史について整理し、時代毎の特徴について把握するとともに、現在の観光政策の課題について整理した。	◎		
	我が国における観光政策・観光計画の歴史の把握	観光政策の国際比較	我が国と諸外国の観光政策について比較し、我が国の観光政策の特徴について把握した。	○		
	観光振興の観点からの社会資本整備の留意点の整理	先進観光地の事例分析	主要な観光先進事例における事例分析から、観光振興に関する評価軸を整理するとともに、社会資本整備と観光振興の関係性について考察した。	○		
	観光振興の観点からの社会資本整備の留意点の整理	観光振興の観点からの社会資本整備の留意点の把握	観光振興の観点から社会資本整備における留意点について整理した。	○		
	観光振興の留意点の把握	観光振興の現状把握	データ及びヒヤリングをもとに、インバウンド観光振興の現状と動向について把握、整理した。	○		
	観光振興の留意点の把握	北海道におけるインバウンド観光の動向の把握	北海道を事例とし、インバウンド観光の動向と課題について把握、整理した。	△	インバウンドのアンケート実施できず。	
	観光振興の観点からの空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策の提言	空港を中心とする観光客の動向の把握	航空旅客動態調査、アンケート調査をもとに、空港を中心とする観光客の動向について分析し、空港や地域における特徴を把握した。	◎		
	観光振興の観点からの空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策の提言	観光振興の観点からの空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策の改良・活用方策の提言	観光振興の観点から空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策について、検討、提言した。	△	社会実験実施できず。	
	観光振興の観点からの空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策の提言					
	観光振興の観点からの空港ターミナル及びグレートウェイ空間の活用方策の提言			<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインを作成、自治体、観光協会、空港利用促進協議会等に配布予定。 自治体、観光協会等における観光振興に配慮した施策・取り組みの企画立案に際して活用可能。 国、自治体等における観光振興に配慮した社会資本整備の計画立案に際して活用可能。 本研究の成果発表のためのシンポジウムを、国土交通省観光部、有識者、先進観光地関係者等により、開催予定。 		

< 成果目標の達成度 > ◎: 十分達成できた。 ○: 概ね達成できた。 △: あまり達成できなかった。 ×: 達成できなかった。